

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 1,280	1,633	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↑ 34	30	ヘルパンギーナ	↑ 7	4
咽頭結膜熱	→ 21	22	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 45	39
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 81	78	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 497	473	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 20	11
水痘	→ 73	74	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 2	0	無菌性髄膜炎	→ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 2	5	マイコプラズマ肺炎	↓ 2	4
突発性発しん	↑ 42	35	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- ☀ インフルエンザ
- ☀ 感染性胃腸炎
- ☀ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 1,280件(前週報告数 1,633件)と減少。地区別では、有明、人吉、山鹿に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の250件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 497件(前週報告数 473件)と増加。地区別では、山鹿、菊池、有明に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の84件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 81件(前週報告数 78件)とほぼ同数。地区別では、天草、熊本、八代に多く報告がみられる。年齢別では、6歳の15件を最多に、幅広い年齢層から報告されている。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	218	6	6	43	150	30	0	2	12	0	2	11		16		1	1	
山鹿保健所	64	0	0	0	59	9	0	0	1	0	0	0	*	*				
菊池保健所	132	1	8	5	63	9	0	0	4	0	0	2						
阿蘇保健所	69	0	0	1	5	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	37	0	0	0	10	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	60	4	5	7	38	0	0	0	7	0	0	2						
水俣保健所	48	0	0	0	6	2	0	0	3	0	0	21	*	*				
人吉保健所	127	12	0	4	29	0	0	0	2	0	0	0	*	*				
有明保健所	278	1	2	2	67	2	0	0	5	0	0	1		4				1
宇城保健所	100	1	0	3	28	8	0	0	4	0	2	6						
天草保健所	147	9	0	16	42	11	2	0	4	0	3	2						
計	1280	34	21	81	497	73	2	2	42	0	7	45	0	20	0	1	2	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	1280	4	20	49	50	69	78	105	104	74	71	79	250	57	57	76	51	29	18	16	23
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	34	7	8	11	4	3		1													
咽頭結膜熱	21		1	5	5	2	2	4	1			1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	81		1	1	6	9	13	9	15	3	3	3	13		5						
感染性胃腸炎	497	8	30	84	28	47	47	35	41	20	30	12	72	6	37						
水痘	73	4	3	23	8	11	11	7	3	1					2						
手足口病	2							2													
伝染性紅斑	2							1	1												
突発性発しん	42	1	24	15	2																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	7		1	3	1		1					1									
流行性耳下腺炎	45			1	7	8	8	13	4	2	2										
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	20						1									3	3	4	5	3	1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1							1													
マイコプラズマ肺炎	2			1	1																
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

インフルエンザ：山鹿・菊池・人吉  
有明・宇城・天草

感染性胃腸炎：山鹿

流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ

県全体のインフルエンザの患者報告数は5週連続で減少しましたが、警戒レベルは継続中です。インフルエンザ迅速検査の診断情報では、インフルエンザB型の割合が徐々に増えてきており、今週は45%がインフルエンザB型でした。また、学級閉鎖等の報告も続いており、引き続き注意が必要です。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。